サーチライト With Pastor Jon　黙示録 20 章　パート 1
https://youtu.be/kQQpqWTYWSE

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。
※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

*「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル **4：7***

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ
http://joncourson.com/
7590 Highway 238　Jacksonville, OR 97530
訳 by 木下言波　DivineUS：https://www.youtube.com/user/TheDivineUs
筆記 by Rin

イエスが戻って来ました。20 章。
わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から下って来るのを見た。（黙示録 20:1 新共同訳）
この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、（黙示録 20:2 新共同訳）
底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、（黙示録 20:3 新共同訳）
面白いことに、サタンは淵に投げ入れられ、その上に封印がされました。
かつて、サタンはイエスに何をしようとしたでしょう？サタンはイエスを墓に閉じ込めて封印をしましたね。でもイエスはそこに留まってはいませんでした。
主は外に出て来ました。このことは知っていますね。
イースター…？ピンときましたか？「復活」そう、その通りです。
サタンはイエスを墓の中に確実に閉じ込めたと思ったのに、主はそこから出てきました。
ここでは話が全く違って、今回は形勢逆転。サタンが、逃れる道のない底なしの淵に 1000 年間投げ込まれます。
“底なしの淵”は“底知れぬ穴”のことで、以前出てきましたね。
患難時代の真っただ中で、悪霊たちが底なしの穴から解き放たれました。

恐ろしい姿をした悪霊を思い出すでしょう。人々はそのイナゴに刺されて、余りにも痛みが激しくて死のうとしますが、死が人々から逃げ、死ぬこともできません。（黙示録 9 章）
“底知れぬ穴”は、最も邪悪な悪霊が、今現在監禁、投獄されている場所です。その悪霊が、底知れぬ穴から放たれる恐ろしい光景でした。
しかし今、黙示録のこの時点で、聞いて下さい。この時点で、サタン本人が御使いに捕まえられているのです。敵である竜のサタンを捕まえているのは、主ではなく御使い。
しかも、一人の御使いです。大勢ではなく、たった一人の御使い。大天使とも書いておらず、ミカエルやガブリエルでもなく、名もない御使い。

これは何を意味しているのでしょう。
私たちは多くの場合、間違って考えるものです。“神 vs サタン”の対決が宇宙で繰り広げられていて、最後まで戦いが続くのだ、と考えています。違います。
神とサタンは、いわゆる対照的なのではありません。
神は神であって、主のような方は他には存在していません。
主と比べたり、争ったり、それ以前に、主に挑むことさえ、誰にもできないのです。
サタンは、元々ルシファーと呼ばれる大天使でした。だから、相反するものがあるとすれば、大天使ミカエルかガブリエルです。神ではありません。
それで預言者は、「私が王国で、天国の視点からサタンを見た時には、『この者が、地を震わせ、王国を震え上がらせ、世界を荒野のようにし、町々を絶滅し、捕虜たちを家に帰さなかった者なのか。（イザヤ書 14:16 - 17）』と言う。」と書いたのです。
どうして私たちは、サタンをそんなに恐れるのでしょうか。ここ、よく見て下さい。
一人の御使いが、悪魔を捕まえるための大きな鎖を手に持って（黙示録 20:1）
ということは、サタンを片手で掴むのです。もう片方の手は、鎖を持っていますから。
彼は、（片手で）悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って（黙示録 20:2）
底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。（黙示録 20:3）
つまり 1000 年の間は、この地上をサタンが走り回る事はありません。

この 1000 年間について、イザヤが 65 章で書いている千年王国の描写は壮麗です。
この期間、全てが正しく、サタンが走り回ることもなく、殺人者や破壊する者、騙す者は、そこから自由になり、全てが平安で繁栄しています。
事実、預言者イザヤはこう書いています。
狼と子羊は共に草をはみ、獅子は牛のように、わらを食い、蛇は、ちりをその食べ物とし、
（イザヤ書 65:25）
彼らは家を建てて住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。（イザヤ書 65:21）
これは、それぞれみんなが、自分が願った家と蓄えを持つようになるということ。
彼らが建てて他人が住むことはなく、彼らが植えて他人が食べることはない。

わたしの民の寿命は、木の寿命に等しく、わたしの選んだ者は、自分の手で作った物を存分に用いることができるからだ。（イザヤ書 65:22）
皆さん、これは本当に素晴らしい時代です。千年王国に入る者全員が、比べようもないほどの平和、完全な繁栄を受けるのですから。
百歳で死ぬ者は若かったとされ、（イザヤ書 65:20）
そこで預言者は、100 歳までに死ぬ者の理由を書いています。
人が常に反抗的なら、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。（イザヤ書 65:20）
そういう人以外は、千年王国では 100 歳以上生きます。あっ、でもこれは、あなたや私ではありません。これは千年王国にいる人たちのことで、私たちのことではない。
私たちは天国にいて、キリストと共に戻って来ます。

では、この時点で、地上にいる人たちとは誰なのでしょう？
千年王国を形成するのは誰なのでしょうか？
それは、イスラエル国家と、イスラエルの味方に立った人たち。
マタイ 25 章、神の民ユダヤ人を潰そうとして全世界が襲いかかる時に、イスラエル国家と共に立つ国々や人々、イスラエルの味方になるということで信仰を示した人々です。
彼らはマタイ 25 章で“羊”と呼ばれています。
イスラエルは再臨したイエスを見た時に、突然気がついて言うのです。
「あなたの胸にあるこの傷はどうしたのか」と問われると、「それは友人の家で受けたものだ」と答えるであろう。（ゼカリヤ書 13:6）
言い換えれば、「あなた方が、わたしに傷をつけたのだ。」
その時、イスラエルは、彼が自分たちのメシアであることを認めます。
それが起こった時に、全イスラエルが救われるのです。患難を生き残ったユダヤ人です。
預言者ゼカリヤは、それはユダヤ人の 3 人に 1 人だと言いました。
患難時代、ユダヤ人の 2/3 が死にますが 1/3 は生き残ります。
それで彼らはどうなるのかと言うと、千年王国に導かれます。
それから、患難時代にユダヤ人サイドに立ち生き残った人たちも、ここで千年王国に迎え入れられます。
と言うと、皆さんは思うでしょう。「それなら、そんなに大した人数にならないと思うのだけど。私たちが支配し治めると言っても、聞く限りでは生き残ったユダヤ人と、患難時代にユダヤ人を助けたことで羊として選り分けられ（マタイ 25 章）、入ることが許された人たち。それって、結構少ないよね？」
いいですか？言っておきますが、申し分のない健康状態で、病気も死もなくて、体の機能は完璧で 1000 年も生きると、たくさんの子供を授かることができるのです。
千年王国では、実際にそれくらいは生きます。と言っても、私たちは違いますよ。
私たちはキリストと共にいて、新しい栄光の体を受けます。
でも、王国に入ることを許可された彼らは 1000 年生きて、子供が生まれ、孫が生まれ、曾孫が生まれ、孫の子供のそのまた子供（玄孫）が生まれ、孫の孫の孫（来孫）が生まれ、孫の孫の孫の孫（昆孫）が生まれ、孫の孫の孫の孫の孫の…仍孫が生まれ、孫の孫の孫の孫の孫の孫の……雲孫が生まれ、

その先もそのまた先もずっと続いて、人口はあっという間に増え、膨大な数の人々が地に満ちて、義と平安と繁栄があり、殺人やぼったくりや暴動などそういったものはないのです。
なぜかというと、私たちが義を強制するから。

私たちはキリストと共に支配し、キリストの片腕として 10 とか 5 つとかの町の統治を任されます。それは、今のこの人生で、主のために行なったことに応じて決められます。
現在皆さんが生きている人生の中で、主が与えられた能力や時間、賜物、そして機会をどう用いたかに従って、王国であなたが行うことが決定されるのです。
それで、皆さんは町を任されます。
「町なんて 10 もいらない。」と言う人もいるでしょう。
「5 つもいらない。」「何もいらない。町は嫌いだ。」「市長とか何とか、そんなものに興味はないんだ。」「何でそんなことのためにわざわざ主に仕えて、自分の時間や大切なものを献げないといけないんだ！」「都会になんか興味はない。俺は“カントリーガイ”なんだ！」
それに関して言わせてもらうと、町にどんな意味があるとしても、主は言われたのです。
「あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。」（ルカ 19:17）
または「5 つの町」或いは「1 つの町を治めなさい。」
これが実現した時には、「あぁ、町を任されなくて良かった。」とは誰ひとり言わないでしょう。「あの男はニューヨークなんか任されて、こっちはロサンゼルスで苦労してるじゃないか。だけど、僕は自由だ。カントリーボーイなんだし。」とはなりません。
理解しておくべき事は、それがどんな事であっても、イエスは、私たちが好まないと思ったら「外に出て機会を活かし、自分の時間や宝を賢く使え。」とは教えなかったし、言わなかっただろうということ。
主は、それが何であったとしても、あなたに事実を気付かせたいのです。その時、あなたはこう言うでしょう。「素晴らしいを通り越して素晴らしすぎる栄光だ！」「主よ。ありがとうございます!!!」「金メダルを目指そう！」パウロも言いました。
神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。（ピリピ 3:14）
ということで、とにかく、町であれ地域であれ、私たちはキリストと共に治めるのです。

千年王国で成長した子供や孫や曾孫に玄孫、来孫、昆孫、仍孫、雲孫‥‥彼らは悪魔の影響を受けることが、どういうものなのか知りません。でもまだ、人間の罪の性質は持っているので、内心ではチョコレートをかすめ取ることを考えるかもしれません。
それに、こんな事やあんな事、うやむやなプランがあるかもしれません。
だから私たちがそこにいて、キリストのような義を強制するのです。つまり、人がチョコレートをかすめ取る計画を練る前に、「そんな事は考えるだけでも駄目だよ。」と。
それは強制的な義で、それによって「大河のような平安（イザヤ書 66:12 新共同訳）」があります。この時、人間はまだ罪の性質を持っていますが、今現在それを掻き立てているサタンはそこにおらず、それに加えて私たちが義を強制しているので、その期間、地上では平和と義の栄光輝く時代となるのです。

さて、サタンは底知れぬ穴に放り込まれ、そのあとで、と 3 節は続けます。
サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。（黙示録 20:3）
サタンは底知れぬ穴に 1000 年間いますが、まだ火の海ゲヘナには放り込まれていません。最終的に堕とされる場所ではなく、底知れぬ穴、牢に監禁されています。
神がサタンを再び自由にさせるのには目的が、まだサタンにさせる事があるのです。
それは何か見ていきましょう。
ヨハネは続けます。
わたしはまた、多くの座を見た。その上には座っている者たちがおり、（これは私たちですよ。）彼らには裁くことが許されていた。（黙示録 20:4 新共同訳）
Ｉコリント 6 章にこうあります。
世があなたがたによって裁かれる…わたしたちが天使たちさえ裁く者だということを、知らないのですか。（Ｉコリント 6:2 - 3 新共同訳）
皆さん、私たちには大きな大きな仕事が待っているのですよ！
わたしはまた、イエスの証しと神の言葉のために、首をはねられた者たちの魂を見た。
この者たちは、あの獣もその像も拝まず、額や手に獣の刻印を受けなかった。
彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した。（黙示録 20:4 新共同訳）
その他の死者は、千年たつまで生き返らなかった。
これが第一の復活である。（黙示録 20:5 新共同訳）
真剣に神学を学んでいる皆さん、それから世的なことから遠ざかっている人たち、よく聞いて下さい。
復活には 2 つあって、“第一の復活”と“第二の復活”。
ヨハネは「多くの座を見た。彼らはその上に座った」と言っています。
これは皆さんや私。
わたしはまた、イエスの証しと神の言葉のために、首をはねられた者たちの魂を見た。
この者たちは、あの獣もその像も拝まず、額や手に獣の刻印を受けなかった。（黙示録 20:4 新共同訳）
これは、患難時代にキリストに立ち返ったために、首をはねられ殺された人たち。
彼らがここで復活しています。興味深いです。
ここで何が起こっているかと言うと、この人たちも復活の体を与えられているのです。
この部分、私には何年も理解できなくて、若い頃ずっと謎でした。
“第一の復活”とは何？それはいつ起こるのか？
これに関して長々と話しませんが、皆さんにもしっかりと考えて、理解しておいて欲しいのです。
“第一の復活”とは、ある一つの時点ではなく、“突然”復活する。
それは、イエス・キリストの復活で始まりました。
パウロはそれを“初穂”と呼びました。（Ｉコリント 15:20，23）最初の復活。
そしてそれは続きます。いつまで？
初めにイエスが復活しました。主が、最初に死から甦った初穂で、それからこの“第一の復活”と言われる一大事は続きます。
神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。

それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、（Ⅰテサロニケ 4:16）
つまり、死んだ人々が墓から飛び出して来て、既に主と共にいる。
肉体を離れて、主のみもとにいる（Ⅱコリント 5:8）
でも彼らは、まだ復活の体を与えられていません。
長くなるので今回はこれ以上話しませんが、
次に生き残っている私たちが…雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。
（Ⅰテサロニケ 4:17）
この携挙の前に、キリストにある死者が先に復活して主と共にいる。
これもまた第一の復活です。
彼らが復活した後、我々生きている者が引き上げられてⅠコリントにある通り、
たちまち一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。（Ⅰコリント 15:52）
いつ？上に挙がる途中で。
「ここに上れ」と言われるや否や、その瞬間、その場で変えられます。これが【携挙】
即ちキリストが復活し、キリストにある死者が復活し、それから我々生きている者が挙げられる。これら全てが“第一の復活”です。
更に続きがあって、（黙示録 20 章）4 節に出てくる患難時代に殺された人たちもまた復活しますが、それは少し後で、患難が終わった後の千年王国の時。
それでも、ともかく復活は続いていて、ダニエル書 12:1 - 2。聖書預言を学んでいる人は特に注意深く読んで下さい。ここは、患難についての記事です。
（ユダヤ人には）国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。
（ダニエル書 12:1）
そして、“その後”患難の後に、
地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者（旧約聖書の信者）が目をさます。（復活する）
（ダニエル書 12:2）
「ナニ!?」　そうです。旧約聖書の信者たち。
彼らは旧約時代に生きて主を信じていましたが、まだ教会の一員ではありませんでした。彼らはヤハウェについては知っており、愛し、主を信じていましたが、イエスが来る前に死んだので、イエスを具体的に知らず、教会の一部になる機会がなかったからです。
それでも、彼らは信仰により信じたことで救われていて、だからイエスは言ったのです。
まことに、あなたがたに告げます。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。（マタイ 11:11）
ダビデもモーセもエリヤも誰も。でも、その後イエスは続けて
しかも、天の御国の一番小さい者（教会）でも、彼より偉大です。（マタイ 11:11）
バプテスマのヨハネは旧約聖書の一員です。イエスが十字架にかかる前に死んだから。
カテゴリーが違うのです。
異なるカテゴリーの中にある旧約聖書の信者が“第一の復活”で復活するのは、千年王国の終わりです。

本当に面白いですね。自分で調べてみて下さい。断定的には言いませんが、でもこれは正しいのです。
ダニエル書 12:1 - 2 を読んで考えて下さい。
イエスが最初に復活し、次にキリストにある死者が復活し、それから我々生きている者が携挙され、先ほどの説明でこれも復活。
そして 4 節の患難時代に殺された人たちも復活しますが、それは千年王国のはじめ。
その後、旧約聖書の信者が千年王国の恐らく終わりに、確実にその時代に復活します。
これら全てが“第一の復活”です。

そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。（黙示録 20:5）
その他の死者とは誰ですか？不信者です。
不信者は未だに墓の中にいて、言うなれば、体は墓の中にあるが、魂、霊は待機室にいます。そこは“ハデス”と呼ばれるひどい場所で、私たちは“地獄”と言いますが、そこが最終地、最後に行き着く所ではありません。
ルカ 16 章でイエスが話したことを覚えていますか？金持ちの男とラザロの話。
ラザロはハデス（地獄）の良い方にいました。そこは、“パラダイス”とも“アブラハムの懐”とも呼ばれ、アブラハムがいる心地良い所でした。
一方、金持ちはハデス（地獄）の悪い方にいました。
ハデスではお互いが見え、声を出して話ができたので、金持ちは叫んで言いました。
「指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこして下さい。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。」（ルカ 16:24）
しかしアブラハムは「できない。」
「私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。」（ルカ 16:26）
つまり、ハデス（地獄）は 2 つに別れているのです。
イエス・キリストが十字架で死んだ時のことがエペソ 4 章に書かれています。
この「上られた」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということでなくて何でしょう。（エペソ 4:9）
「そこで何をしたのか？」
彼は多くの捕虜を引き連れ、（エペソ 4:8）
「どういう意味？」
主は、ハデス（地獄）の良い方であるパラダイス（アブラハムの懐）に行き、そこにいる全ての人々を天国に連れて行ったのです。
「なんで、彼らは天国へ行っていなかったのか？」
それは、キリストがまだ彼らの罪のために死んでいなかったからです。
だから、そこは良い方のパラダイス（アブラハムの懐）ではありましたが、まだ天国へは行けませんでした。
でも、キリストが彼らの罪のために死なれた時、主は下って行き、「あなたたちが留まっているこの場所は良い所だが、これから行く所とは比べ物にならない。わたしと来なさい。」そう言って、彼らを天

国へ導かれました。
そして、パラダイス（アブラハムの懐）は閉鎖されたのです。
現在は、人は死ぬと、体を離れて、主のもとに住む（Ⅱコリント 5:8 新共同訳）

しかし、悪い方のハデス（地獄）。こちらの待機室は、今でも不信者がいる場所です。
もしあなたが今不信者で、心を開いて主の前で正しくなる前に死んだ場合は、ここがあなたの行先です。
ハデス（地獄）の悪い方は、一時的な場所、留置場、待機室で、心地良い所ではありませんが、それでもまだ最悪ではありません。最悪の場所は後で見ます。

復活には 2 つあって、“第一の復活”は救われた人々。
“第二の復活”はこれから見る通り終わった人たち、堕ちた人たちです。
この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。（黙示録 20:6）
あなたが第一の復活にあずかるなら幸せで聖なる者。
第一の復活にあずかろうと思っている人は手を挙げて下さい。はい。あなた方は幸いです。皆さんは幸いな人たちです。
たとえ人生で何一つ良いことがなかったとしても、全てが間違った方向に行っているように見えても、あなたは本当に幸いです。
なぜなら、あなたは第一の復活にあずかり、天国に行くから。

第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。（黙示録 20:6）
第一の死は肉体的な死で、携挙されない限り誰もが死にます。人は誰でも肉体的に死ぬ。
これが“第一の死”。
しかし“第二の死”は、永遠の地獄へ堕ちること。これは避けたいことですよ、皆さん！
第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死（堕地獄）は、なんの力も持っていない。
彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。（黙示録 20:6）

それゆえ　私の心は喜び　私の胸は喜びにあふれます。私の身も安らかに住まいます。
あなたは　私のたましいをよみに捨て置かず
あなたにある敬虔な者に　滅びをお見せにならないからです。
（詩篇 16:9 - 10 新改訳 2017）